



キラリ輝く
輝き人
Vol.17
日光に生きる人

30年間クマを追いつけてきた熱きカメラマン

動物カメラマン

よこた ひろし
横田 博 さん

★写真を始めたきっかけは？

足 尾地域でクマを撮り続けて30年。今まで解明されなかったクマの生態などを数多く映像に収め、「熊仙人」とも呼ばれる動物カメラマン横田博さんを紹介し
ます。

見たことがない世界、新しい世界を知る感動をたくさんの人に知ってもらいたい。そして生き物の生態を「なるほどな」と少しでも理解してほしかった。クマを撮り始める前は、中禅寺湖に生息している淡水魚の写真を撮っていた。当時は謎に包まれていたニジマス
の産卵シーンを撮影したこともあるな。

★クマを撮り始めたのは？

ある時、足尾でカモシカを撮影していた時、ファインダーを覗いていたらいきなりクマが入ってきた。その時に「自分はクマに選ばれたんじゃないか」という思いが湧いてきてな
そこらでずっとクマを撮り続けているよ。

★思い出深い出来事は？

ひとつの出来事というよりは、クマの生態について「なるほどな」と学んだことを積み重ねてきたことが大切な。ある時、ドンダリの木に登って食事をしているクマを撮影していたら、クマがこっちに気付いて唸り声をあげながらじつと動かなくなってしまう。こつちも動かずに撮影を続けてな
お互い1時間くらいじつと動かなくていたかな。俺が少し場所を変えようかと動いた瞬間に、クマが木から飛び降りて一目散に逃げた。行ったよ。動物は相手が動いた瞬間が何かしらの行動のきっかけになるということを学べたな。

★今後の目標は？

近年、山菜取りに行つてクマに襲われる事故が多くなってきている。今まではあまりクマに関する情報を外に発信してこなかったが、30年をきっかけに、お世話になった足尾のために、足尾地域のクマの生態についての講演会を積極的に
行っている。自分が肌で学び、感じたクマの生態をたくさんの人に知ってもらい、この話を聞いてもらおうと少しでもクマに襲わ



「岩の上から覗く熊」(横田博氏撮影)

れる事故が少なくなればいいなと思ふよ。

♡インタビューを終えて…

第一印象は豪快な方。そのイメージ通りの方でした。「クマに会って怖いと思ったことはないな。目の前にクマが落ちてきたことはあるけどな」と笑う横田さんは、まさに「熊仙人」でした。
「横田さんにとって「クマ」とは何ですか」の質問に、「ライフワーク、人生だな。小さい世界かもしれないけど、自分が行っていることが少しでも誰かのためになればいいと思う」と答えてくれた横田さん。30年間続けてきた方の言葉は心に響きました。